

かずさ

日本ボーイスカウト
上総地区

29号

発行日
2013. 2. 1

発行：上原 進（地区委員長） 編集：運動拡大委員会（委員長 山本 勲）

2012 上総地区キャンポリー in 大多喜

’12 上総地区キャンポリーが、日本連盟発足 90 周年記念を祝して、大多喜風の村にて開催されました。テーマ「風を感じよう」に則り、パイオニアリング・ハイキング・調理など日ごろの訓練の成果を発揮し、班の力を結集して楽しい活動を展開しました。

今回は、ベンチャースカウトも大会に参加しました。ベンチャー村を設営し、福島支援のため現地材料を使った郷土料理「こづゆ」を作り参加者に提供、また、開会式・閉会式の企画・運営を担当した。独自のプログラムは海での活動などベンチャーらしいプログラムを展開しました。

’12 上総地区キャンポリーが、8 月 10 日から 13 日 3 泊 4 日の行程で開催されました。ボーイスカウト 70 人、ベンチャースカウト 18 人、ローバースカウト 1 人に隊指導者 42 人、実行委員・奉仕スタッフ 37 人、合計 168 人が集まりました。

初日 10 日の午前中、各隊指定されたバスの乗って続々と会場入りしました。先ずすることは 3 泊するテントの設営です。あっという間に（とはいかなかったようですが）ドームテントや A 型テント、マーキーテントなどが立ち並びました。休むまもなく夕食の準備と食事、そして開会式に臨みました。開会式では初めに市原第 7 団張替君に菊スカウト章の伝達があり、皆さんに祝福してもらってから式典に入りました。ベンチャースカウトの片岡さん（茂原第 2 団）の司会の下で隊旗が入場し、上原大会長の挨拶、続いて来賓の風の村を運営する福祉法人うぐいす会の宇野顧問挨拶、スカウト代表挨拶があり、キャンポリーはスタートしました。



2 日目、午前中はパイオニアリング。各隊持参した丸太や竹、板等をロープで結んでゲートを作りました。このゲートはコンテストに付されます。午後からは、日本連盟創立 90 周年事業参加プログラム「きずなウォーキング」。座標で指示された地点まで行き、折り返して戻ってくる約 10km の行程でした。所要時間が 1 時間 50 分から 2 時間 30 分と、隊によって差が出ましたが全員無事帰還しました。スカウトにとっては何のことはないウォーキングでも、同行した指導者には厳しいものがあつたようです。皆がウォーキングに出払った後、審査員がテントサイトを廻り、各隊が作ったゲートの審査をしていました。夜のプログラムはキャンポリーナイト。夕食メニューであるカレーを作って一堂に会し、味わいながら参加者が交歓します。ドライカレー、塩カレー、アケリアスカレー、野菜カレー等様々なカレーが並びました。順番に食べ比べながら他隊のスカウトと交歓し楽しい夕べとなりました。

3 日目、昼間は各隊プログラム。大多喜町を中心に市外探索をする隊、養老溪谷まで足を伸ばしてハイキングする隊などそれぞれの企画に基づいて小旅行を楽しみました。そして早くも夜は閉会式。かがり火の中でゲートコンテストの表彰（茂原第 2 団）、優秀班の表彰があり、本大会を陰で支えた実行委員会各部長の紹介、スカウト代表石垣君（市原第 5 団）の決意表明「16NJ であいましょう」で幕を閉じました。

最終日 4 日目は撤収、来た時よりもきれいに！ テントをたたんで、機材を整理し、感謝を残して、帰路に着きました。

スカウトの感想

地区キャンポリーは 4 年に 1 度地区で集まって行われるキャンプで、今年には上総地区内の各ベンチャースカウト隊も参加しました。

ベンチャースカウト隊のプログラムは、ボーイスカウト隊とは別で、1 日目はベンチャースカウト隊だけのサイトを作ってベンチャー村と名付けました。上級班長や隊付で、ボーイスカウト隊に奉仕しているベンチャースカウトも夜はここで寝ました。ベンチャー村住人は、ベンチャースカウト 11 人、ローバースカウト 1 人、奉仕のベンチャースカウト 8 人、指導者数名でした。ベンチャー村設営後に夜開会式を行いました。開会式では急遽司会を頼



まれ、私は緊張して舌を噛みました（すいません）。また、この日は福島の郷土料理を作ってボーイスカウトに食べてもらい、風評被害について説明して、福島のためになる活動をしようという企画を実施しました。福島の郷土料理として紹介した「こづゆ」とは、人参や椎茸等が入った汁物で、とても美味しかったです。ただ七味唐辛子を入れて過ぎてしまったのでボーイスカウトには辛かったみたいです。

2日目はパイオニアリングと流し素麺を行いました。パイオニアリングで

はベンチャー村の立派なゲートを作り、全ベンチャースカウトの名前を一人ひとりゲートに刻みました。その後、茂原2団の企画で流し素麺を実施。孟宗竹を切り出し、真っ二つに割って節を一個ずつ丁寧に削り取るところから行いました。流し素麺には上級班長、隊付のベンチャースカウトも参加し皆で行いました。皆楽しんでくれて良かったです。3日目は朝から御宿海水浴場に出かけ、ベンチャースカウトの交流を深めました。海水浴はボーイスカウトで実施することは滅多にないので楽

しかったです。夜は閉会式を行い、この3日間の活動を振り返って表彰式をしました。舌は噛まずに済みました。4日目は撤営をして解散しました。あっという間に終わってしまった4日間ですが、地区のベンチャースカウト、ボーイスカウトと触れ合えてとても楽しかったです。

今後、地区のベンチャースカウト隊の活動をもっともっと活発化させ、より有意義な活動にしていきたいです。

（茂原第2団ベンチャースカウト隊 片岡 莉彩）

第10回上総地区ビーバーまつり

二年の一度の上総地区ビーバーまつりが、4月8日（日）に暖かな日差しの中で開催されました。地区内のビーバースカウトとその友だちが一堂に会し、元気に仲良く活動し、ゲーム等を通じてルールやマナーを学ぶ、一人でも多くの友だちにビーバーの楽しさを体験してもらい、入隊に導くことなどが目標です。



剣に聞き、災害の大変さ、訓練の大切さに気付いたのではないかと思います。各隊ではなかなか味わえない大人数での集会は「とても楽しかった」、「大きな輪を見てこんなに仲間がいたのだと嬉しく思った」などの感想が寄せられました。

（ビーバーまつり実行委員長 平野初代）

タイトルは『宇宙旅行をしよう』とし、参加者数はスカウト45人、リーダー・保護者等を含め総勢144人でした。地区役員や実行委員の方々の援助をいただいで無事終了することができました。

場所は市原市の中央にある高滝の加茂公民館とその周辺、開会セレモニーの後、ゲーム「宇宙船に乗ろう」で8つのグループに分かれ、春の草花が咲き、代掻きの終わった田んぼの畦道へ

とハイキングに出発しました。途中「キラキラ星を探そう」、「宇宙への橋を渡ろう」、「星のかげらを集めよう」のゲームにスカウトたちは頭を寄せ合って、話し合ったり協力しながら仲良くゴールに向かって進んで行きました。お弁当は桜満開のせせらぎ広場でいただきました。

午後からは津波に対する災害訓練があり、東日本大震災の体験作文を真



第18回上総地区くまスカウト集会

6月9～10日、東金青年の家において、第18回上総地区くまスカウト集会



が行われました。地区内のくまスカウトが一堂に会し、楽しい時間を過ごす中で上進への意欲を高めることを目的としています。今年は「上総の忍者ここに参上！」のテーマで、30人のくまスカウトが集まり、カブスカウト活動で培った技能を生かして1泊舎営をしました。

1日めはまず組集会。さすがにくまスカウトになると役割分担も次々と決まりました。そして工作で吹き矢を作成。夕食は飯ごう炊さんの予定でした

が、台風のような大荒れの天気になり断念。リーダーたちが風雨の中で作ってくれたカレーライスを、スカウトたちは感謝の心でいただきました。

2日めは太陽が照りつける快晴のもと、吹き矢をたずさえてハイキングです。ポイントでは忍者が出迎え、さまざまなゲームをクリアしていきました。わずか1泊でしたが新しい友だちができて終了しました。今度はボーイ隊で会いましょう！

（くま集会実行委員長 青木 美子）

第2回上総地区ベンチャーを終えて

平成24年3月30日～4月1日、那須野営場で開催した第2回千葉県ベンチャーのプログラムの中で、福島県連盟のベンチャースカウトと交流を持つ場がありました。上総地区の代表スカウトとして3人のスカウトが参加しており、交流の中で福島県連盟のスカウトから放射能汚染における風評被害の現状が報告されたことに対して自分たちも何らかの形で風評被害を無くしていく活動ができないかという思いが走りました。

その後、今年度開催予定の第3回上総地区ベンチャー（以下、3KV）のプログラムについて準備委員会、実行委員会で協議し現地へ赴き、ありのままの事実、現状を知り、被災地の方々の気持ちに思いを馳せることが先決ということで11月23日～25日に3KVを実施いたしました。実施に先立ち、今夏に開催した上総地区ジャンボリー場で福島県の郷土料理「こづゆ」をベンチャー村で調理し、参加隊、大会本部スタッフの皆さんにご賞味いただき、福島を知る第一歩が始まりました。ここに熱き思いを抱いて参加したスカウトの感想文の一部を紹介いたします。（上総地区副コミッショナー 磯野 好広）

【11月23日（金）1日目】

今日は震災後の福島県に初めて来ました。電車やバスの中から見た街並みが、どこか静かでまだ復興していない所もありました。後、新しい家や建設中の建物などが沢山あって、被災したのだなと思いました。次に多くの被害を受けた「アクアマリン福島」に行きました。入った時は、被害を受けたなんて思えないほど普通に楽しい水族館でした。けれども従業員の方のお話を聞いた時、ものすごくいろいろな思いが



出てきました。それは「当たり前なのが、当たり前じゃなくなった」という言葉にはすごく気になって、自分が今、当たり前にかけている事ができなくなったのを想像すると、とても大変な事だと思いました。また「今まで育ててきた魚たちをただのゴミとして処分しなければいけなかったのは、とても辛かった」という言葉には涙が出そうになりました。このような現実を受け入れて、前向きに進むアクアマリン福島の方々はとてもすごいと思いました。自分も前向きにいろいろ進めるような強い人間になりたいです。

（市原第3団 山本 彩恵）

【11月24日（土）2日目】

ボランティア活動へ向かう途中、電車に乗っていて、家の基礎部分だけのところやブルーシートでおおわれている所などがあるのを発見した。久ノ浜駅から歩くと、かつて家があった場所では家の基礎コンクリートも無く、津波被害のひどさがよくわかった。オーガ



ニックコットンは、日本古来の種である茶綿を栽培していた。白い綿を想像していたのでびっくりした。綿は塩に強いので、塩害のあった場所でも栽培しているようだ。いわき市の新しい特産物になるよう頑張っているようだ。コットンドール作成の後、「いわき市のやっていることを他の地域に広げてほしい」という話を聞いて、私たちが“福島のため”とやってやっていることは、福島の人のためだけでなく、逆に私達も支えられているかも知れないと思った。福島の人でも確実に進んでいるということがわかってとても有意義に過ごせた。福島の方は今の条件で出来る事をやるという姿勢は、すばらしいと思った。

（東金第1団 霞 綺花）



【11月25日（日）3日目】

今日は大野水耕生産組合に話を聞きました。いわき市の栽培方法は主に室内栽培なので野菜などは放射能の影響は受けなかったらしいですが、風評被害があると聞きました。改めて考えてみると、我々「消費者」の問題であるとわかりました。また生産者の思いも出てきました。いわき市だけでなく、今も風評被害に苦しんでいる農家の皆さんにこれからも頑張ってほしいと願っています。（3KV実行委員長 大網白里第1団 佐々木 俊）

国際交流発表会

国際委員会

上総地区国際交流発表会を平成24年6月17日（日）市原青少年会館集会所で行いました。

来る第16回日本ジャンボリーおよび

第23回世界スカウトジャンボリーに向けて、スカウトの皆さんが国際交流に対する動機づけを培うこと、又海外スカウトとの受入れに保護者の方々の理解

を得ることを目的とし、スカウト、保護者及び指導者を対象としました。

発表内容は日韓スカウトフォーラムでは参加スカウトとスタッフの個人発



表、第22回世界スカウトジャンボリーではリーダーによる概要紹介と個人発表とパネルディスカッション、ローバースカウトシンガポール派遣ではリーダーによる概要紹介と個人発表そしてホームステイ体験発表は紙上発表で行われました。発表者はスカウト8人、指導者3人で、参加者はスカウト8人、

指導者26人でした。

保護者の参加がなかったこととスカウトの参加が少なかったことを反省し、次回に繋げたいと思います。なお、発表の様子は報告書に代え、DVDで各団に配布してありますので、機会を作って是非ご覧ください。

大規模災害発生時に備えて

安全委員会

平成24年市原市総合防災訓練が、9月1日、9月2日 10地区(12会場)で行われました。9月2日当日は大気の状態が不安定で、いつ雨が降り出してもおかしくない空模様でした。我々ボーイスカウトは、災害対策啓発訓練の一環として訓練に参加、訓練メイン会場の八幡東中学校に上原地区委員長以下8人の参加者が、朝8時過ぎ会場に乗り入れ、準備に取り掛かりました。簡易炊具(立ちかまど)、簡易テント、



雨水集水シート、野宿用テント(個人用)等現場に設置しボーイスカウトのPR

に努めました。訓練開始1時間ほどで、南の空から黒い雲がグングン押し寄せ、心配していた通り大粒の雨が降り出し訓練の大半が中止となり、早々の閉会となってしまいました。しかし災害はいつ何時、雨の日夜間を問わず発生する事を考えると、雨天続行も訓練の内ではと感じました。参加された方々には雨の中本当にお疲れ様でした。

(安全委員長 佐久間 秋男)

救急法講習会

スカウト育成委員会

1. 開催の状況

平成22年度からスカウトが受講する救急法の講習会の開設は、スカウト育成委員会が担当しており、基礎コースと実務コースの2回に分けて受講することになっております。上総地区で基礎コースは3回計画して2回実施し、1回は南総地区での受講となりました。

基礎コースは県下の各地区にて開催されており、スカウトは都合のつく講習会に参加できるよう指導者の皆様にはご指導をよろしくお願いいたします。基礎コースを修了したスカウトは実務コースの受講をすることとなりますが、実務コースは千葉県青少年女性会館で年に数回開催され23年度は5回開かれました。

2. 基礎コース

半日の日程で以下のセッションを受講します。

開講式の後、§1救急法の基本、§2日常よく出会う傷病の手当て、§3中毒と環境変化による障害、§4救急要請、§5まとめの5つのセッションを

受講します。

使用するテキストはボーイスカウトライブラリー「ボーイスカウト救急法」です。

日常よく出会う傷病として、鼻血、目のちり、やけど、指の切り傷、立ちくらみ、腹痛、足首の捻挫、四肢の打撲などがありますが、その対処について講師より講義を受けます。

また、セッション3ではショック状態の兆候、食中毒、一酸化炭素中毒、熱中症の症状や対処について学ぶほか、虫刺されや毒蛇の知識と幅広く学ぶこととなっております。

3. 実務コース

基礎コースを受講したスカウトは修了書を受け、希望するスカウトが実務コースに進みます。実務コースでは開講式の後、救急法の基本、AEDと心肺蘇生法(救急要請を含む)、止血法、骨折、捻挫、頭部外傷、搬送法、について1日かけ実技を通じて対処の仕方を学びます。

4. いざという時のために



スカウト活動をしているとき、あるいは普段の生活の中で怪我をした人、具合が悪くなった人が出たときなど、すぐにどう対処していいのかわかることが非常に役に立ちます。そんな時のために「そなえよつねに」まさにボーイスカウトの実践として救急法講習会が開催されております。2級以上のスカウトのみなさんは機会を見つけてぜひ受講してください。もうやったよ。というスカウトも2回でも3回でもOKです。なお、技能章「救急章」の取得するには講習会を受講することが必須となっております。

(スカウト育成委員長 山下 博行)

各団からの便り

市原第1団

五角形に1人用テントを張るアイデア

2012年10月20(土)～21日(日)に奈良公園にて、市原1団ボーイスカウト隊のスカウト5人によるグリーンバー訓練キャンプを行いました。1級チャレンジも兼ねていたのでベンチャー隊に1人用テントをお借りして設営開始。スカウト達は設営時にはテントを並列に張っていました。

初日のスケジュールを一通り終えて消灯時間までの自由時間、通常のキャンプだと1つのテントに勢揃いし、賑やかに楽しんでいましたが、今回は全員1人用テント。皆が1つのテントには入れません。今回はどうするのかとリーダー達は興味津々でした。



するといつも通りのスカウト達の楽しそうな笑い声や歌声。なんと設営時には並列に並べていた1人用テントを五角形に並べ、真ん中にブルーシートを敷き、皆が輪になれる空間を作り出していました。

空を見上げれば満天の星、五角形の

真ん中は、とても楽しそうでした。スカウト達の仲の良さ、楽しそうな笑顔を見ると、リーダー達も自然と素敵な笑顔になっていました。

まさにこれが「創意工夫」でしょうか。(ボーイ隊 副長 長嶋 良和)



市原第3団

“新しいマーキーテントが来たよ！”

平成24年度のトピックスはニッセイ財団からマーキーテント二張りを寄贈いただいたことです。前の団委員長からも含め、数回申請しながらなかなか通らなかったのですが、この度晴れて活動を認められ、5月31日に千葉県庁で行われた贈呈式で頂戴することができました。

7月22日に市原第3団の野営場でお披露目式を開催し、みんな笑顔で真っ



白のマーキーの前に立って記念写真を撮りました。スカウトたちから感想文や絵日記を書いてもらい、ニッセイ財団にお礼の報告を行いました。

その後8月の地区キャンポリーや10月の誓いの式でも新しいマーキーは大活躍。みんなで大事に使っていきたいと思います。

(以下はスカウトたちの感想です。)

「ニッセイ財団のお披露目のカードを僕も持ちたい。」(ビーバー)、「うわっまっ白でまぶしい。自分でも早く張れるようになりたい。」(カブ)、「地区キャンポリーに新しいマーキーを持って行けるのでうれしい。」(ボーイ)、「ピッカピカのペグを初めて見た。マーキーを大事に使って活動に活かしたい。」(ベンチャー)。



市原第5団

発団40周年 思いを新たに

市原第5団は、昨年10月17日に発団40周年を迎えました。

私達の団は、昭和47年に、市原南ライオンズクラブのご支援により、当初はボーイ隊のみでスタートしました。その後、カブ隊(昭和49年)、ベンチャー隊(昭和52年)、ローバー隊(昭和59年)、ビーバー隊(平成4年)が発隊し、現在の編成になりました。

子どもの多かった時代は、カブ隊、ボーイ隊ともに2隊編成の時期もありましたが、発団30周年以降は、少子化が顕著になり、この10年は5団にとっても、正念場の10年だったと言えます。

このような中、去る11月25日(日)に南総公民館において、発団40周年記念式典を開催しました。当日は、白鳥教育長・上原地区委員長・阿久津地区



お礼の言葉 相田ウルフ班長

コミッショナーをはじめ、日頃お世話になっている各地区団委員長やライオンズクラブ役員の方々の他、元団役員、現団員、スカウト総勢80人が参加しました。

式典の中で、スカウト自身による班活動の重要性や発団当時の苦労話などご来賓の方々から貴重な話しを伺うことができました。また、最後にボーイ隊ウルフ班の相田晴貴班長から力強いお礼の言葉、ベンチャー隊の先導で“弥栄”を三唱し、盛会裏の内に終了することができました。この40周年は、次の50年に向けて団員一人ひとりが心をひとつにする良い機会となりました。

(団委員 征矢 善充)



全員で記念撮影 — 50周年に向けて心をひとつに —

市原第6団

カブホリデー in Tomiyama

2012年の夏季キャンプを8月17日～19日の3日間大房岬少年自然の家で行いました。今年のテーマは、キャンプ地である南房総にちなんで「八犬伝」ならぬ「八カブ伝」です。

初日は、海での磯遊び。箱めがねで、磯の生き物を観察、晴天にも恵まれカニを捕ったり、潜ったり。中には、潮だまりの中で温泉気分に入るスカウトも。夜はキャンプファイアーをして、初日は大過なく過ぎました。

二日目は、カブホリデーのハイライト富山のハイキングです。

全員が元気に富山の頂上まで登りました。富山は南総里見八犬伝の舞台となった山。山麓には伏姫の洞窟があります。八カブ士となったスカウトたちは追跡サインをたよりに途中でさまざまな課題をクリアしながら最後はリーダー扮

する怨霊を倒して(?)見事ゴールすることができました。

その夜、肝試しも全員無事に終了して施設に戻るとき、空を見上げると、息を飲む位にハッキリと満天の星空が見えました。さそり座、しし座、はくちょう座、夏の大三角形。そしてなに

より天の川の濃いこと。美しい星空を堪能できました。この日に観た星空を大人になっても覚えていてくれるかな。

活動の詳細は、“いちほらワイワイ広場” [検索](#) でもご覧になれます。是非立ち寄ってみてください。

(カブスカウト隊)



市原第7団

楽しいキャンプの思い出

8月5日、ビーバー隊ディキャンプは大多喜町の風の村で実施。初めての場所に長い時間一緒に、スカウト達はワクワクです。伊藤大山ハイキングではゲームをとおして普段見ない葉っぱや景色に興味津々。

お昼は「流しそうめん」です。最初はぎこちなかったスカウトも、すぐに見事な箸さばきで何杯もお代わり。風の村のタワー登りは少し難しかったけど、スカウト全員が「登りたいっ!!」と答え、リーダーもビックリ。子ども達は挑戦したい気持ちでいっぱいです。

キャンプファイヤーでは、カブ隊と多くの歌を唄い、ビーバー隊の歌と可愛い踊りで、沢山拍手を頂きました!! 長い一日でしたが、スカウトは最後ま



で元気いっぱいでした。

一方、カブ隊は8月3日から6日、同じ風の村(舎営)で実施。年間テーマがマジックツリーハウスで、最高のデン作りが出来、わくわくドキドキの舎営でした。いつもと違い、組毎に分かれてログハウスをデンに、色々な狩

りに挑戦。竹で水鉄砲を作り、養老溪谷でハイキングです。

ドラゴンボール風ゼリーは、ビーバー隊のおもてなし用に100個も作りました。工夫を凝らしたキャンプファイヤーの出し物など沢山の狩りをして、遅くなって家に帰りました。

茂原第2団

「やすらぎの森」でデイキャンプ

ボーイスカウトの夏といえば、一年の活動を締めくくるキャンプ!ですよね?でも、ビーバー隊はお泊りのキャンプには行けません。そこで、茂原第2団では、カブ隊やボーイ隊に負けないように、毎年日帰りのキャンプで楽しい一日を過ごしています。

今年度は、8月19日に睦沢町の「やすらぎの森」でデイキャンプを行いました。見学のお友達もたくさん来てくれて、総勢33人の大イベントです。午前中はやすらぎの森ハイキングとザリガニ釣りです。(誰?エサのするめを食べているのは!) カートンドッグとポトフでお昼ご飯にしたあとはお楽しみの水遊び。水着に着替えて、水鉄砲に水を入れたら戦闘開始です。頭に巻

いた金魚すくいのポイをめぐって狙い撃ち!小さな風船に水を入れた水爆弾も登場して、大人も子供もビショビショになって遊びました。やすらぎの森はみんなの楽しい笑い声が響き渡っていましたよ。おやつには、みんなで割ったスイカをおいしく食べて、楽しい一



日の幕切れとなりました。

最後に、食堂フライを二張りも立てて日陰を作ってくれたボーイ隊の指導者の皆さん、カートンドッグ作りを指導してくれたカブ隊の指導者の方々、ご協力ありがとうございました。

(ビーバー隊 隊長 海藤 裕子)

東金第1団

シンガポール派遣報告と思い出



2011年3月9日から16日まで千葉県連盟ローバースカウト第2回シンガポールプロジェクトが行われ、県内からローバースカウト5人、指導者2人で行ってまいりました。

ローバースカウト達は今回の派遣目的を奉仕、交流、個人の3つのプロジェクトに分け計画を練って行きました。

いかにしたらシンガポール星1団のスカウト達に喜んでもらえるか、ローバースカウトとして何が出来るかなどを話し合いプログラムが作られていきました。

イーストサイドパークにて、ローバースカウト達がボーイスカウト達にロープワークを指導し、一緒にモンキーブリッジを作成し全員渡りました。セレ

モニーはかっこ良く、ゲーム、料理などでは優しく楽しく、そんなお兄さんスカウトと活動した事が、星1団のスカウト達の良い思い出となればうれしいです。後日、送られてきた感想には「将来お兄さんのようなかっこいいスカウトになりたい」と書いてありました。



毎回とても楽しみにしていっしょという足浴と足裏マッサージでした。皆様のやさしい笑顔は忘れられません。シンガポール在住の日本人が積極的に奉仕活動を行っている様子も知ることが出来ました。今回、このプロジェクトに参加させていただいて本当によかったですと思います。

マウントアルパニアホスピタルにあるアシシホスピスでの奉仕活動は貴重な体験だったと思います。患者様達が (ベンチャー隊 隊長 山本 裕子)

大網白里第1団 「ペットボトル筏作成体験記」

今年度の我がビーバースカウト隊のテーマは「ビーバー海賊隊」。夏キャンでは「海賊船を作ろう」と、みんなで決めました。

きっかけは数年前、とある保護者より「夏キャンでは思い切ったことをやりませんか!」との言葉。「筏を作って荒波へ繰り出しましょう」と当時の隊長。しかしながら、台風の直撃や、その他不運・災難が続き今年ようやく実現しました。



ジャケットを装着して、いざ荒波へ向かい進水式! 15分間の航海を楽しみました。そうです、15分後にはスカウトの激しい乗船に耐え切れず、「我が海賊船」の崩壊が始まってしまいました! でも、そこはスカウトです。海へゴミをばら撒くわけにはいきません。みんなで回収して、その後海水浴を楽しみました。

(ビーバー隊 隊長 平井 龍生)



当初は「竹&タイヤチューブ筏」を計画していましたが、「ビーバースカウトでも出来る工作」との考えから、「竹&ペットボトル」で作成しました。竹で骨組みを作り、76本の2リットルペットボトルを結束バンドで固定、幅広ラップで補強(団委員さんのアドバイス)して完成しました。

上記工法でスカウトを中心に約3時間の作業時間でした。お揃いのライフ



日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内には115の団があります。

それぞれの団は県内を11のブロックに分けた地区に所属しています。

我が上総地区もこの11の地区の一つです。

また、上総地区には8個の団が所属しています。

団名	活動地域	入団等問合せ先	電話番号
市原第1団	市原市八幡宿、五井 周辺	田中 秀近	0436-21-3840
市原第3団	市原市国分寺台 周辺	河崎 哲夫	0436-43-2226
市原第5団	市原市牛久 周辺	藤代 良彦	0436-92-0034
市原第6団	市原市辰巳台 周辺	齋藤 敏子	0436-75-0392
市原第7団	市原市姉崎 周辺	菊池 由紀	0436-62-4004
茂原第2団	茂原市、長生郡 周辺	青木 勇	0475-23-9239
東金第1団	東金市、山武市、山武郡 周辺	山下 博行	0475-55-0204
大網白里第1団	大網白里市、白子町 周辺	奥貫 誠	0475-72-7988